

した。認定を受けると市の「仕居する際に市の補助を受けられたりする。」

鳥の火願う収束コロナ

完成アート鶴折り喜多方



折り鶴を貼り付ける児童

新型コロナウイルスの収束を願う、喜多方市の松山町行政局長（松原実会長）と松

山公民館は一日、千羽鶴アートを完成させた。松山町在住の会津ふるさとアートHAMON代表の佐藤明宏さんが「再生の炎の中で」と題して、タテ・三本、ヨコ・七本のキャンバスに伝説の鳥「火の鳥」を描いた。火の鳥は町民らが折った鶴三千羽によるモザイクアートで、新型コロナウイルス収束後の世界が、より良くなるようにとの思いを込めた。同日に松山公民館で行われた作業には、松山小六年生二十三人も参加した。児童はそれぞれ願いを書いた折り鶴を、キャンバスに貼り付けた。前田我流君（こ）と白田遥香さん（こ）は「新型コロナウイルスが早く収まり、みんなと修学旅行に行けるよう祈った」と話した。千羽鶴アートは松山公民館に展示している。

10月4日(月) 福島民報 会津版

火の鳥千羽鶴アート

喜多方コロナ撲滅願う作る

喜多方市松山町行政区の住民は新型コロナウイルスの撲滅を願い、約3千羽の折り鶴を使って火の鳥を描いた千羽鶴アートを制作した。松山小の児童が1日、火の鳥の絵に折り鶴を貼り付けて完成した。



新型コロナウイルスの影響で、地区イベントを開くことができないことから、同町行政局長と市松山公民館が共同で行った。同地区に住む佐藤明宏さんがワクチン接種が始まり、ようやく希望が見えてきた状況は、炎からよみがえる火の鳥に似ている。火の鳥でウイルスを焼き尽くしてほしい」との思いを込め縦1・3尺、横2・7尺の大きさの絵画を描いた。地域住民が自宅で折り鶴を折り、火の鳥の羽の部分などに貼り付け、千羽鶴アートを作り上げた。

▲心を込めて折った折り鶴を火の鳥に貼り付ける児童

に住民一人一人のメッセージも書かれている。松山小6年の鶴川悠斗さん(11)は「早くコロナがおさまってほしい」と書いた。みんなで作った火の鳥の力でコロナをなくしたい」と話した。千羽鶴アートは、26日に開催予定の松山町文化作品展に合わせて、同公民館で展示する。

使いやすい環境整備
駅前公衆トイレ完成
坂下、利用を開始



会津坂下駅前一新築された公衆トイレ

10月4日(月) 福島民友 会津版

